

# 令和8年度 ルールの改正点・修正点

## 1 6人制修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、2025年1月にFIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに2026年度版ルールブックの改正点を以下のようにまとめた。

ケースブックについては2025年のルール改正に伴って削除や追加されたケースが多く、今年度も全体的な見直しを行った。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

### ● 修正点

1. カッコ書きの補足表現を文中に組み込む形に修正した。
2. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 2 9人制改正点・修正点

今年度についても、これまでのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則を見直した。具体的には、相手側フリーゾーンからボールを取り戻すケースで、チームがヒットした回数によりボールアウトとなる改正を行った。また、9人制と6人制の競技規則について、その違いを簡易的にまとめて表にした。その他、日頃から公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)に寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

以下が本年度の主な改・修正点である。

### ● 改正点

1. 第11条 ボールイン・アウト

3 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外側のネット垂直面を越えて相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかで以下の条件のもとボールを取り戻すことができる。(第3図-2)

(1) ボールの全体または一部は再びコートと同じ側の許容空間の外側からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。相手チームはこの動作を妨げてはならない。

(2) 選手は相手側のフリーゾーン内でプレーすること。

(3) チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外側を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

→チームのヒットした回数による取り戻しを変更した。

### ● 修正点

1. 第3章 試合の準備と進行

今まで「第5章 試合の中断と遅延行為」に含まれていた以下の条項を記載した。

・セットおよび試合の勝者

## 2. 第13条 ネット付近のプレー

### 第5項 インターフェア

(3) アンテナ外側のネットおよびロープに触れ相手チームの選手のプレーを妨害したとき。

➡アンテナ外側のネットを追加。

## 3. 第15条 サービス

### 第2項 サービスの失敗（第5図）

サーバーが次の行為をし、またはサービスボールが次のいずれかに該当するときはサービスの失敗とする。

また、正当なサービス順ではないサーバーが下記(1)および(2)に該当したときもサービスの失敗とする。その場合、試合は正当なサーバーの第2サービスで再開する。

➡正当なサービス順でない場合を追加。

### 第5項 サービス順の誤りと処置（第4表）

~~(1) 主審のサービス許可の吹笛後、誤ったサーバーが第1サービスのトスをする前に正当なサーバーと交代したときは、試合はそのまま続行する。この場合、交代したサーバーはその吹笛から8秒以内にサービスを行う。~~

~~(2) 主審のサービス許可の吹笛後、誤ったサーバーが第1サービスのトスをした後、トスをしたボールがサーバーの身体に触れずに床面に落ちた場合に限りサービスの失敗とし、正当なサーバーと交代してそのサーバーの第2サービスで試合を再開する。~~

➡文言の削除。

## 4. 第21条 選手交代

### 第3項 例外的な選手交代

1 試合中にコート内の選手が重大な負傷等をしたとき、審判員は直ちに試合を止めて、医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。その選手がプレーを続けることができないときは、次の順序によって処置する。

➡医療担当者を追加。

(1) 負傷等をした選手に対して正規の選手交代ができないときは、例外的にチームベンチにいる選手の誰とでも交代をすることができる。この交代は選手交代の回数には含まない。この場合、負傷等をした選手はその試合中、再びコートに戻ることはできない。

(2) 正規にも例外的にも選手交代ができないときは、その負傷等をした選手に回復のため3分間のタイムアウトが与えられる。この回復のためのタイムアウトはその試合中、同一選手に1回に限る。

➡番号の整理、文言の変更。

## 5. 第24条 特殊な事情による試合の中断と処置

(2) インプレー中にコート内の選手が重大な負傷等をしたとき。

➡重大な負傷等の場合を追加。

## 6. 第33条 公式ハンドシグナル

### 第1項 主審と副審の公式ハンドシグナル（第7図）

(1) 主審が吹笛したときは主審は次の順序で示す。

① ポイントのハンドシグナル（得点を得たチーム）

② 反則のハンドシグナル

③ 必要に応じて反則をした選手を指す

(2) 副審が吹笛したときは、副審は次の順序で示す。この場合、主審はポイントのハンドシグナル（得点を得たチーム）のみを示し、反則の種類、反則をした選手は示さなくてもよい。

① 反則のハンドシグナル

- ② 反則をした選手
- ③ 主審に追従して、ポイントのハンドシグナル（得点を得たチーム）
- (3) ダブルファウルの場合はダブルファウルのハンドシグナルのみ示す。
  - ① ダブルファウルの公式ハンドシグナル
  - ② 次のサービスを行うチーム

➡ 文言の変更。

第7図 審判員の公式ハンドシグナル

第8図 線審の公式ハンドシグナル

それぞれのシグナルの説明を変更した。

➡ 文言の変更。

#### 7. 付録(3) 公式記録記入法

##### 2 トス

- ④ チームから提出されたサービスオーダー票の選手番号が公式記録用紙に記入された選手番号と違いがないかチェックをし、第1セットの先発選手番号欄の□の中に選手番号をサービス順に記入する。

➡ 文言の変更。

#### 8. 付録(5) ケースブック

ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

### 3 ビーチバレーボール修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、FIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに、2026年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

#### ● 修正点

1. マッチプロトコールの手順をより理解しやすいように、表現を一部修正した。
2. カッコ書きの補足表現を文中に組み込む形に修正した。
3. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 4 ソフトバレー修正点

競技規則制定から39年を迎え、競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集を行った。

本年度は、点数・スコアの表記を得点に修正した。以下が本年度の主な修正点である。

### ● 修正点

#### I. 条文の修正

##### 第2章 チーム

##### 6 競技参加者の権利と義務

##### 6.2 監督の権利と義務

6.2.1 監督は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.2.2 監督は各セット開始前に、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

⇒条項の順序を変更した。

##### 6.3.1 チームキャプテンは次のことを行う。

6.3.1.1 チームを代表してトスを行い、監督が不在の場合は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.3.1.2 監督が不在の場合、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

⇒条項の順序を変更した。

6.3.2 チームキャプテンは試合中、コート上にいる間はゲームキャプテンとして競技の中断中に主審または副審に対して次のことができる。

⇒「次のことができる」の条文を加えた。

##### 第3章 試合の準備と進行

##### 12 コートの交替（コートチェンジ）

12.3 交替が正しい時点で行われなかった場合、誤りに気づき次第交替する。交替が行われた時点の得点は、そのまま引き継がれる。

⇒「スコア」を「得点」に修正した。

##### 第4章 得点、セットおよび試合の勝者

##### 16 セット（試合）の没収

16.3 相手チームに対しては、そのセットまたはその試合の勝者になるために必要な得点が与えられ、不完全となったチームのそれまでに得た得点は生かされる。

⇒「点数」を「得点」に修正した。

##### 第5章 プレー上の動作と反則

##### 17 サービス

##### 17.3 サービス順

サービスは、ラインアップシートに記入された順に従って行われる。

もし、サービス順通りに行われなかったときは、サービス順の誤りの反則となり、反則中に得た得点は取り消され相手チームにサービス権と1点を与えた後、正しいポジションに戻す。

⇒「点数」を「得点」に修正した。

##### 20 ブロック

20.2 ブロック中、身体の一部がネット上端より高い位置にあるとき、ボールがネット上端より低い身体の部位に当たってもブロックとみなされる。

20.3 ブロックは、ボールがブロッカーに接触したとき完了する。

⇒ 20.3の条文を削除し条項の変更，これまでの条項を20.3から20.7に繰上げた。

## 第6章 不法な行為とその罰則

### 23 罰則につながる不法な行為

役員，相手チーム，チームメイトまたは観衆に対するチームメンバーの不法な行為は，その程度により4類に分けられる。

23.1 軽度の不法な行為：判定に対する執拗な話かけや競技参加者の品位を損なう言動等，試合中にプレーへの牽制，判定に影響を及ぼすような行為。

23.2 無作法な行為：良いマナーやフェアプレーの精神に反した行為。

23.3 侮辱的な行為：中傷的または相手チームを侮蔑するような言葉やジェスチャー，あるいは軽蔑を表す行為。

23.4 攻撃的な行為：実際の身体的攻撃，または攻撃的，威嚇的な行為。

⇒ 23.1の条項を削除し条項の変更，これまでの条項を23.1から23.4に繰上げた。

29.1 2人の線審は，ネットに向かって左側のコートの両端から0.5～1 m離れた位置に立ち，フラッグを使ってその任務を遂行する。

⇒ 「ネットに向かって左側のコートの両端」を「主審または副審からみてそれぞれ手前サイドラインの右側のコーナー」に修正した。

## 第7章 審判員とその責務および公式ハンドシグナル

### 31 主審と副審の公式ハンドシグナル（第10図）

#### 第10図 主審と副審の公式ハンドシグナル

##### ●ペネトレーションフォルト ⑮

片方の手でセンターラインまたは該当するラインを指す。

⇒ 「足元」の表記を「該当するライン」に修正した。

## ソフトバレーボール小学生競技規則

### 3 試合の進行

3.7 サービスはラインアップシートに記入された順に従って行われる。

もし，サービス順通りに行われなかったときは，サービス順の誤りの反則となり，反則中に得た得点は取り消され相手チームにサービス権と1点を与えた後，正しいサービス順に戻す。

⇒ 「点」を「得点」に修正した。

### 公式記録記入法

#### ■入場前（プロトコール開始前）

② チーム名，監督名，選手名，性別，年齢を記入し，チームキャプテンの番号を○で囲む。

⇒ 「キャプテン」を「チームキャプテン」に修正した。

#### ■試合前（トス後，最初のサービス開始前）

監督またはキャプテンの欄に監督のサインを採る。監督不在の場合はチームキャプテンのサインを採る。各チームのポジションシートの中央の○枠にA，Bを記入する。第1セットの試合経過欄の上部，A，Bのサービスチームに○をつける。

⇒ 「またはチームキャプテン」の表記を削除し「監督不在の場合はチームキャプテンのサインを採る」の条文を修正した。

#### ■試合中

(2) 第3セット8点目のコートチェンジ

① コートチェンジ時の得点を左右入れ替えて記入し，その後の得点は，その下の得点欄に記入する。

⇒ 「スコア」を「得点」に修正した。

#### ■試合終了後

試合終了時刻は，主審が試合終了のハンドシグナルを示した時刻を記入する。確認欄には，記録員がサインをし，次に両チームのキャプテン，線審，副審，主審の順にサインを採る。（た

だし、線審については、記録員が事前に記載してもよい。)

⇒サインを採取する。サインを採る。記録員が事前に書いても採取しても良い。を記録員が事前に記載してもよい。に修正した。

## 付録2 プロトコール（試合前，セット間および終了後の手順）

### チーム

監督（チームキャプテン）は、記録席へ行く。チームキャプテンはトスを行う。

監督（監督不在の場合はチームキャプテン）は、トスの後に、記録用紙の構成メンバーを確認しサインする。

全ての選手はユニフォーム姿で待機する。

⇒「監督またはチームキャプテン」を「監督不在の場合はチームキャプテン」に修正した。

### 主審・副審

主・副審は、両チームの監督（チームキャプテン）を記録席前に導く。

主審は、記録席前で、副審を立ち会わせてチームキャプテンによるトスを行った後、監督（監督不在の場合はチームキャプテン）から記録用紙にサインをもらう。

⇒「監督不在の場合は」の条文を加えた。